●〈症例〉

大腸海綿状血管腫を合併した内痔核 に対して内視鏡下ALTA療法を 施行した1例

青木 順* 塚本亮一 市川亮介 呉 一眞
本庄薫平 岡澤 裕 水越幸輔 河野眞吾
宗像慎也 高原一裕 河合雅也 丹羽浩一郎
高橋 玄 小島 豊 富木裕一 坂本一博

順天堂大学医学部／下部消化管外科

*Corresponding author: jaoki@juntendo.ac.jp

〔Key Words〕大腸海綿状血管腫, 内痔核

はじめに

ALTA (Aluminum potassium sulfate hydrate, tannic acid, 以下ALTA)療法は、2005年より保険適応となった内痔核に対する局注硬化療法である¹⁾。今回我々は、大腸海綿状血管腫を合併した出血を繰り返す内痔核に対し、内視鏡下でALTA療法を施行し、比較的良好な経過を得たので報告する。

症 例

患者：20歳代、男性。

現病歴：2010年10月に倦怠感を主訴に近医を受診し、内痔核と貧血を認めたため、当科を紹介受診した。

直腸診所見：肛門全周に内痔核を認めた。血液検査所見ではヘモグロビン(Hb)は5.2g/dlと著明な低下を

Table 1 Initial blood test findings.

WBC	3,900/ μ l	ALP	179IU/l	Amy	56IU/l
RBC	3.1×10^6 / μ l	AST	13IU/l	Na	139mEq/l
Hb	5.2g/dl	ALT	19IU/l	K	3.9mEq/l
Hct	21.2%	γ -GTP	15IU/l	Cl	105mEq/l
MCV	52.2fl	T-bil	1.22mg/dl	CRP	0.0mg/dl
MCHC	24.5%	TP	7.1g/dl		
Plt	260×10^3 / μ l	CK	52IU/l		
		BUN	7 mg/dl		
		Cre	0.58mg/dl		

認め、出血の急性期を示唆する正球性貧血の所見であった(**Table 1**)。

大腸内視鏡検査所見：精査および内痔核に対してALTA療法を行う目的で、大腸内視鏡検査を施行した。検査所見は、盲腸からS状結腸は正常であったが、直腸S状部から肛門にかけて連続性、全周性に暗赤色でまだらな血管腫を認め、海綿状血管腫と診断した(**Color 1-a**)。血管腫には出血の所見はみられなかった。肛門には血管腫から連続して緊満した内痔核を認めたが、通常の痔核と比べ血管の腫脹が著明であった(**Color 1-b**)。

治療：内痔核に対し、ALTA療法ガイドライン¹⁾の定める四段階注射法に準じ、内視鏡下でALTAを局注した。穿刺針は25G内視鏡穿刺針を用いて、反転および直視方向から3か所の内痔核に対し、計20mlの局注を行い、局注後に肛門部のマッサージで薬液を浸透させた。

経過：治療後は著明に症状が軽快し、2ヵ月後にHbは14.1g/dlまで改善した。その後は症状の再燃なく通院を中断していたが、下血が再燃したため2015年2月、

Fig. 1 The transition of hemoglobin. Two separate treatments of endoscopic ALTA (aluminum potassium sulfate and tannic acid) therapy for internal hemorrhoids markedly improved anemia.

当科を受診した。受診時のHbは5.9mg/dlと著明に低下し、直腸診で内痔核の再発を認めた。

再来時大腸内視鏡検査所見：海綿状血管腫の確認と再度ALTA療法を行うため、大腸内視鏡検査を施行した。前回と比べ海綿状血管腫に変化を認めず、出血の所見はみられなかったが(Color 2-a)、肛門部に約半周性に内痔核の再発を認めた(Color 2-b)。

再来時治療：今回も下血および貧血の原因は内痔核と考え、内視鏡下でALTA療法を施行した。

再来後経過：治療後1カ月でHbは10.4g/dlまで改善し、下血も軽快した(Fig. 1)。現在、外来で経過観察中である。

考 察

大腸海綿状血管腫は下血を主な症状とする若年発症の稀な疾患である²⁾。今回我々は、内痔核に対するALTA療法を行う目的で施行した大腸内視鏡で海綿状血管腫の診断に至った。自験例では海綿状血管腫に出血を認めず、内痔核の治療後に貧血が改善したことから、貧血の原因は内痔核の出血であったと考えられた。しかし、海綿状血管腫では7割の症例で出血のコントロールが不良で手術が施行され、死亡例の報告もあることから、今後も海綿状血管腫からの出血を考慮した慎重な経過観察が必要であると考えられた^{3,4)}。

ALTA療法は、斬らずに治す痔の治療として注目される局注硬化療法で、その再発率は2～3%から10数%とされる¹⁾。通常、肛門周囲に局所麻酔を行い肛門鏡観察下で、ALTA療法ガイドラインの定める四段階注射法で局注を行う¹⁾。内視鏡下にALTA療法を行うメリットは、局所麻酔が不要で、モニターで術野を共有でき、内視鏡的粘膜切除術(EMR)の手技を応用し的確に粘膜下層への局注が可能であることがあげられる⁵⁾。また、同時に大腸の精査が可能で、本症例に海綿状血管腫が見つかったように、スクリーニングも行うことができる。

内視鏡下のALTA療法は、まだ一般に普及していないが、「内視鏡を用いる」という点が異なるだけで、従来の推奨されている手技を根本的に変えるものではなく、今後、有効な治療として認知されていくことが望まれる。

文 献

- 1) 内痔核治療法研究会：ALTA療法(四段階注射法)ガイドライン[医師用]。内痔核治療法研究会，2014

- 2) 松永厚生，望月福治，安藤正夫，他：大腸海綿状血管腫の1例。胃と腸，30：1457-1461，1995
- 3) 長嶺寿秋，権田 剛，崎元雄彦，他：種々の血管系異常をともなった直腸びまん性海綿状血管腫の1例。日本大腸肛門病会誌，60：110-115，2007
- 4) 林 勝知，味元宏道，加納宣康，他：直腸，肛門，会陰部，臀部にわたる広範なDiffuse Cavernous Hemangiomaの1例。日本大腸肛門病会誌，39：393-396，1986
- 5) Tomiki Y, Ono S, Aoki J, et al：Treatment of internal hemorrhoids by endoscopic sclerotherapy with aluminum potassium sulfate and tannic acid. Diagn Ther Endosc. 2015；2015：517690.doi：10.1155/2015/517690
(カラーはp. 14に掲載)

A case of internal hemorrhoid with diffuse cavernous hemangioma of the colon treated with endoscopic sclerotherapy with ALTA

Jun Aoki	Ryoichi Tsukamoto
Ryosuke Ichikawa	Kazumasa Kure
Kumpei Honjo	Yu Okazawa
Kosuke Mizukoshi	Shingo Kawano
Shinya Munakata	Kazuhiro Takehara
Masaya Kawai	Koichiro Niwa
Makoto Takahashi	Yutaka Kojima
Yuichi Tomiki	Kazuhiro Sakamoto

A male patient in his 20s consulted a nearby clinic because of physical weariness and melena on October 2010. He was referred to our hospital for the treatment of internal hemorrhoid and severe anemia. We performed colonoscopy for colorectal screening, and sclerotherapy with aluminum potassium sulfate and tannic acid (ALTA) for the hemorrhoid. The colonoscopy showed a diffuse cavernous hemangioma with no findings of bleeding and reddish hemorrhoids in the whole anal circumference. Consequently, we considered that the melena was caused by hemorrhoidal bleeding. We performed endoscopic ALTA injection on the hemorrhoid which promptly improved the anemia. Nevertheless, after 4 years and 4 months, the patient revisited to our hospital because of melena recurrence. We performed retreatment with endoscopic ALTA injection for the hemorrhagic hemorrhoid, and found a diffuse cavernous hemangioma with no bleeding similar to the previous condition. The treatment with ALTA injection improved the symptom again. He is currently being closely observed as an outpatient. We report a case of internal hemorrhoid with diffuse cavernous hemangioma of the colon that was successfully treated with endoscopic sclerotherapy with ALTA.

Department of Coloproctological Surgery, Juntendo University
Faculty of Medicine

*Corresponding author：jaoki@juntendo.ac.jp